

## 「アゲハの幼虫の孵化」(3年)

どんな人生にも、重要な局面というものがありますが、アゲハも例外ではありません。それを観察対象にしているのが、3年生の理科とも言えます。アゲハの成長で重要な場面は、孵化、蛹化、羽化の3つでしょう。

蛹化(ようか)は、幼虫→前蛹→サナギと比較的ゆっくり起きるので、観察のチャンスが多いです。羽化も「サナギホルダー」などの工夫で、観察するチャンスも多いでしょう。しかし、卵から幼虫が出てくる「孵化」は「不可」です。普通は・・・。

昨日の休み時間に、3年生の女の子(この子は「虫少女」---常時鼻に幼虫を載せてます)が、プラケース(おばあさんが飲み薬を分類するような箱)を持って、見て見て---といいます。見れば、まさにアゲハの幼虫が卵の殻を破って、「孵化する瞬間」でした。

子ども(特に低学年)というのは、何か珍しいものや、面白いもの(または人)があると、たちまち「集合する」という、物理的特性があります。その時も、たった1ミリの幼虫の周りに、ざっと30人ぐらいの人ばかりができました。

「え、え、え?どこにいるの?え?この黒い点みたいのが幼虫??」

「うわぁー!動いてる、動いてる!ほんとに生まれてる!」

「たまごの殻食べてる!おいしいのかなあ?」

「ワァぁー!&%\$#○###\*@!!!」

やや(かなり)パニック気味で、エジプトのサハティール広場のような感じでした。いやー、幼虫って、たった1ミリなのに、子ども30人を興奮させるなんてすばらしいですね。



(左) 卵から出てきたばかりのアゲハの幼虫。一旦卵から離れます。

(右) 殻を食べる幼虫。

\*田中撮影(携帯のカメラ)あまりうまく撮れませんでした・・・